

# 宮内庁所管陵墓の状況について

メモ) 鉄本 (2022.07.05)

来館者の多くの方が古墳はすべて国(宮内庁)が所有し管理しているものと勘違いされています。そこで宮内庁所管の陵墓の状況をまとめました。

## 1. 陵墓等の数

監区別陵墓等数

陵墓等\監区名	多摩	桃山	月輪	畝傍	古市	計
歴代	2	30	33	30	17	112
歴代外	2	35	24	12	3	76
墓	78	55	366	44	9	552
分骨所・火葬塚・灰塚	1	5	33	0	3	42
髪歯爪塔・その他	19	6	13	4	26	68
陵墓参考地	1	16	7	12	10	46
計	103	147	476	102	68	896

※平成25年5月末現在

出典:「発掘された日本列島2013」文化庁編 朝日新聞出版

\*「皇室典範」では、天皇、皇后、太皇太后、及び皇太后を葬る所を「陵」、その他の皇族を葬る所は「墓」と明確に分けています。「陵」は188基、「墓」は555基(宮内庁 HP の数字)、「陵墓参考地」は46基。

## 2. 時代別・陵形別御陵数

表について; 時代別の分類は天皇の在位時期に従って分類している。従って、陵墓そのものの時代区分を表すとは限らない。陵形は宮内庁の区分表記に従う。

時代		古墳・飛鳥・奈良	平安	鎌倉・南北朝	室町・安土桃山	江戸	明治以降	合計
高塚式陵墓	前方後円	24						24
	円丘	12	22	8		1(孝明)		43
	山形	10						10
	方丘	1	6					7
	上円下方	2					3	5
	八角丘		1	1				2
塔・九重塔等			1	3+1	1	13		18+1
方形堂			2	6	6	1		15
合計		49	32	18+1	7	15	3	124+1

(注) ・ 塔・九重塔=多宝塔、五輪塔、宝篋印塔、九重塔 江戸期の九重塔は泉涌寺(京都)内にある。

・ “+1”は、第91代 後宇多天皇の陵形が「方形堂と五輪塔」となっているため。

・ 山形=自然地形を利用した陵墓、円丘=自然地形を利用した円形に近い陵墓

## 3. 前方後円墳総数と前方後円墳形陵墓数

- ① 全国の前方後円墳の基数 5,764 基
- ② 墳丘120m以上の前方後円墳の基数 126 基
- ③ 陵墓とされている前方後円墳の基数 24 基 (全体①の 0.4%)
- ④ 陵墓参考地を含めた前方後円墳の基数 43 基 (全体①の 0.7%)

#### 4. 歴代天皇陵(第50代まで)

代数	天皇	御陵名	宮内庁陵形	所在地	考古学的比定地/参考地
1	神武	畝傍山東北陵	円丘	橿原市大久保町	
2	綏靖	桃花鳥田丘上陵	〃	橿原市四条町	
3	安寧	畝傍山西南御陰井上陵	山形	橿原市吉田町	
4	懿徳	畝傍山南織沙溪上陵	〃	橿原市西池尻町	
5	孝昭	掖上博多山上陵	〃	御所市大字三室	
6	孝安	玉手丘上陵	円丘	御所市大字玉手	
7	孝霊	片丘馬坂陵	山形	奈良県北葛城郡王子町	
8	孝元	剣池嶋上陵	前方後円墳	橿原市石川町	
9	開化	春日率川坂上陵	〃	奈良市油阪町	
10	崇神	山辺道勾岡上陵	〃	天理市柳本町	
11	垂仁	菅原伏見東陵	〃	奈良市尼辻西町	
12	景行	山辺道上陵	〃	天理市渋谷町	
13	成務	狭城盾列池後陵	〃	奈良市山陵町	
14	仲哀	惠我長野西陵	〃	藤井寺市藤井寺	
15	応神	惠我藻伏崗陵	〃	羽曳野市誉田	(参):御廟山古墳
16	仁徳	百舌鳥耳原中陵	〃	堺市堺区	
17	履中	百舌鳥耳原南陵	〃	堺市西区	
18	反正	百舌鳥耳原北陵	〃	堺市堺区	(参):土師ニサンザイ古墳
19	允恭	惠我長野北陵	〃	藤井寺市惣社	(参):津堂城山古墳
20	安康	菅原伏見西陵	〃	奈良市宝来	
21	雄略	丹比高鷲原陵	円丘	羽曳野市島泉	(参):大塚山古墳
22	清寧	河内坂門原陵	前方後円墳	羽曳野市西浦	
23	顕宗	傍丘磐坏丘南陵	〃	香芝市北今市	(参):築山古墳
24	仁賢	埴生坂本陵	〃	藤井寺市青山	
25	武烈	傍丘磐坏丘北陵	山形	香芝市今泉	(参):新山古墳
26	継体	三嶋藍野陵	前方後円墳	茨木市太田	(考):今城塚古墳
27	安閑	古市高屋丘陵	〃	羽曳野市古市	
28	宣化	身狭桃花鳥坂上陵	〃	橿原市鳥屋町	
29	欽明	檜隈坂合陵	〃	奈良県高市郡明日香村	(参):見瀬丸山古墳
30	敏達	河内磯長中尾陵	〃	大阪府南河内郡太子町	
31	用明	河内磯長原陵	〃	〃	
32	崇峻	倉梯岡陵	円丘	桜井市大字倉橋	(考):赤坂天王山古墳
33	推古	磯長山田陵	方丘	大阪府南河内郡太子町	(考):植山古墳
34	舒明	押坂内陵	上円下方墳	桜井市大字忍阪	
35	皇極	越智崗上陵	円丘	奈良県高市郡高取町	
36	孝徳	大阪磯長陵	〃	大阪府南河内郡太子町	
37	斉明	(重祚=35)	〃	奈良県高市郡高取町	(考)牽牛子塚古墳
38	天智	山科陵	上円下方墳	京都市山科区	
39	弘文	長等山前陵	円丘	大津市御陵町	

40	天武	檜隈大内陵	円丘	奈良県高市郡明日香村	
41	持統	〃 (合葬=40)	〃	〃	火葬
42	文武	檜隈安古岡上陵	山形	〃	(考)中尾山古墳 火葬
43	元明	奈保山東陵	〃	奈良市奈良阪町	火葬
44	元正	奈保山西陵	〃	〃	火葬
45	聖武	奈保山南陵	〃	奈良市法蓮町	
46	孝謙	高野陵	前方後円墳	奈良市山陵町	
47	淳仁	淡路陵	山形	あわじ市賀集	
48	称徳	(重祚=46)	前方後円墳	奈良市山陵町	
49	光仁	田原東陵	円丘	奈良市日笠町	
50	桓武	柏原陵	円丘	京都市伏見区桃山町	(参)大亀谷陵墓

(注) (参)=宮内庁で陵墓参考地とされている古墳 (考)=考古学的に天皇の陵墓と比定されている古墳

## 5. 天皇陵の墓制の変遷

- ① 古墳時代 **厚葬の風潮** 山陵(高塚式) 「令義解」では天皇の墳墓の称号として「山陵」を規定、  
「倭名類聚鈔」では、「美佐々岐(みささき)」と表記  
石室・須恵器・形象埴輪・模造品 ⇒ 遺骸の埋納儀礼、飲食供献儀礼、権威継承儀礼
- ② **「大化薄葬令」** 大化2年(646)に、第36代孝徳天皇の詔 → 墳墓規模の縮小  
〈身分別喪葬規定〉 身分は、王以上、上臣、下臣、大仁、小仁、大礼以下に分類し、墓室・設備・役務の  
範囲を規定。(例)王以上の墓域は方9尋、高さ5尋、役1000人×7日、帷帳は白布・輜車(じしゃ)など  
⇒ 天皇陵の超越化を図り、葬儀を国家的な祖先祭祀の場とする。
- ③ 薄葬思想の流れと仏教の伝来 第41代持統天皇の火葬(**天皇初の火葬**)  
第43代元明天皇の遺言 養老5年(721)の葬儀は、火葬しその場に常緑樹と陵碑だけを建立  
⇒ **古墳から山丘を利用する形への変化** さらに散骨葬への流れ
- ④ 仏教信仰の広がり 9C頃から盛土墳墓(高塚式)は衰退
- ⑤ 卒塔婆建立 第54代仁明天皇(9C末)墳上に初めての卒塔婆建立
- ⑥ **陵所二所の一般化** 第61代朱雀天皇(10C中)以降、火葬塚(=御墓所・御陵)と埋骨所(=本陵)に分離
- ⑦ 寺院境内埋葬 第67代三条天皇は船岡山で火葬され遺骨は北山の小寺に埋納される。(11C初)  
以降、寺院境内への埋葬が増加、寺院が管理。 → 「山陵に擬する」(「百鍊抄」)
- ⑧ 堂や塔の下への埋骨 12C中頃以降、法華堂や九重塔の下に埋骨する形態が増加  
→ 泉涌寺が天皇家の菩提所になる。
- ⑨ **土葬制の復活** 承応3年(1654)第110代後光明天皇によって、火葬を改められ土葬制を採用
- ⑩ **高塚式の復活** 第121代孝明天皇以降、高塚式御陵を築造

### 【参考文献】 ・宮内庁 HP 歴代天皇陵

- ・「日本の古代5 前方古円墳の世紀」森浩一編 中央公論社 1986
- ・「陵墓から見た日本史」羽田中岳夫氏の寄稿 日本史研究会 京都民科歴史部会編 青木書店 1995
- ・「天皇陵」～古代史研究の最前線～から黒羽亮太氏の寄稿 洋泉社編 2016
- ・宮内庁陵墓部資料「発掘された日本列島2013」文化庁編 朝日新聞出版
- ・「事典墓の考古学」土生田純之編 吉川弘文館 2013
- ・「神と死者の考古学」～古代のまつりと信仰～ 笹生衛 吉川弘文館 2016
- ・國學院大学「古典文化学」事業 HP ・Wikipedia